

ツブ資源開発調査

I 調査目的

本県日本海において、カニかごにツブの混獲がみられ、また、他県船によっても相当混獲されているようなので、ツブ資源の分布状況および企業の見通しについて検討し、漁業生産の向上と沿岸漁業経営の安定をはかる。

II 調査内容

(1) 調査期間 昭和45年3月1日～同年3月31日

(2) 調査員および調査船

調査員 技師 赤羽光秋

技師 田村真通

調査船 福宝丸 2.01トン 11馬力

(3) 調査海域 青森県日本海海域

(4) 調査項目

① 分布状況

② 漁獲物組成

III 調査結果

① 分布状況

ツブ籠漁場開発計画図にもとづき、ツブ籠2放(1放30ヶ)を使用し、餌料は底びき網漁業で漁獲された雑魚を網袋に入れ使用した。調査期間中時化の日が多く、調査を実施したのは7日間であった。

調査実施海域は、鰺ヶ沢沖WNW7,000～8,000mのNo.8海区(水深60～66m)、No.12海区(水深78～80m)、No.13海区(水深75～80m)および鰺ヶ沢沖NW9,000m、No.24海区(水深92～95m)ならびに鰺ヶ沢沖NE/N1/2N7～8マイル巨岸2,000m海域(水深20m)の5海区であった。

この海区で漁獲があったのは12海区、13海区の2海区で漁獲量は下表のとおりであった。

種 類 海 区	モ ス ソ ガ イ	エゾボラモドキ	エゾタマガイ
12	5コ	2コ	4コ
13	2コ	6コ	0
計	7コ	8コ	4コ

② 殻長、体重組成

種 類	平 均 殻 長	平 均 体 重
モ ス ソ ガ イ	3.2cm	9.4g
エゾボラモドキ	3.7cm	4.1g
エゾタマガイ	2.5cm	11.1g

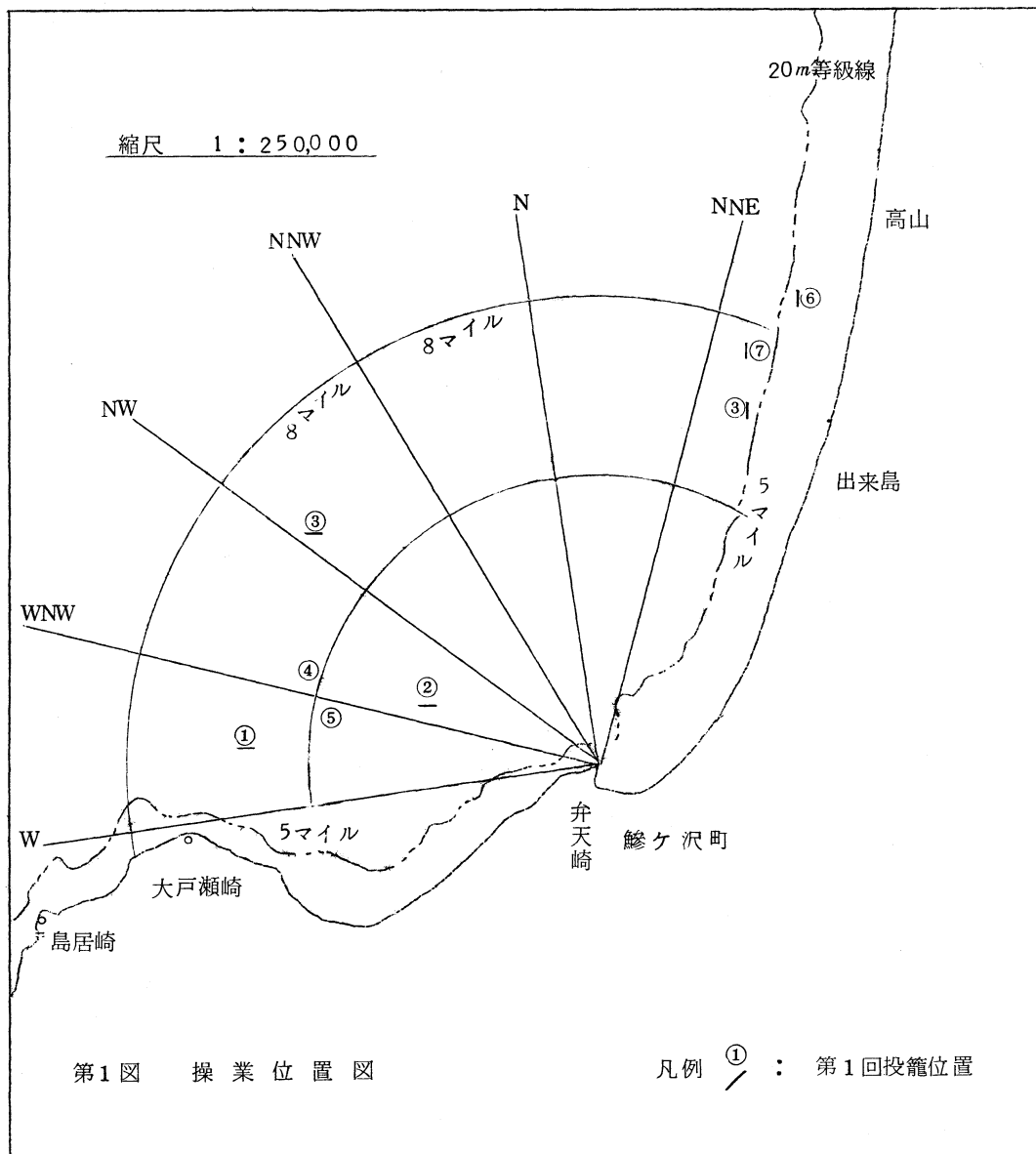
③ 漁獲と水深、底質との関係

末尾に示した操業結果表及び、第1図操業位置図に表わしたように、ツブ(モスソガイ)の入籠した場所は、水深80m、海底砂泥質のところに見受けられ、水深及び底質が異なるところでは、出現しなかった。

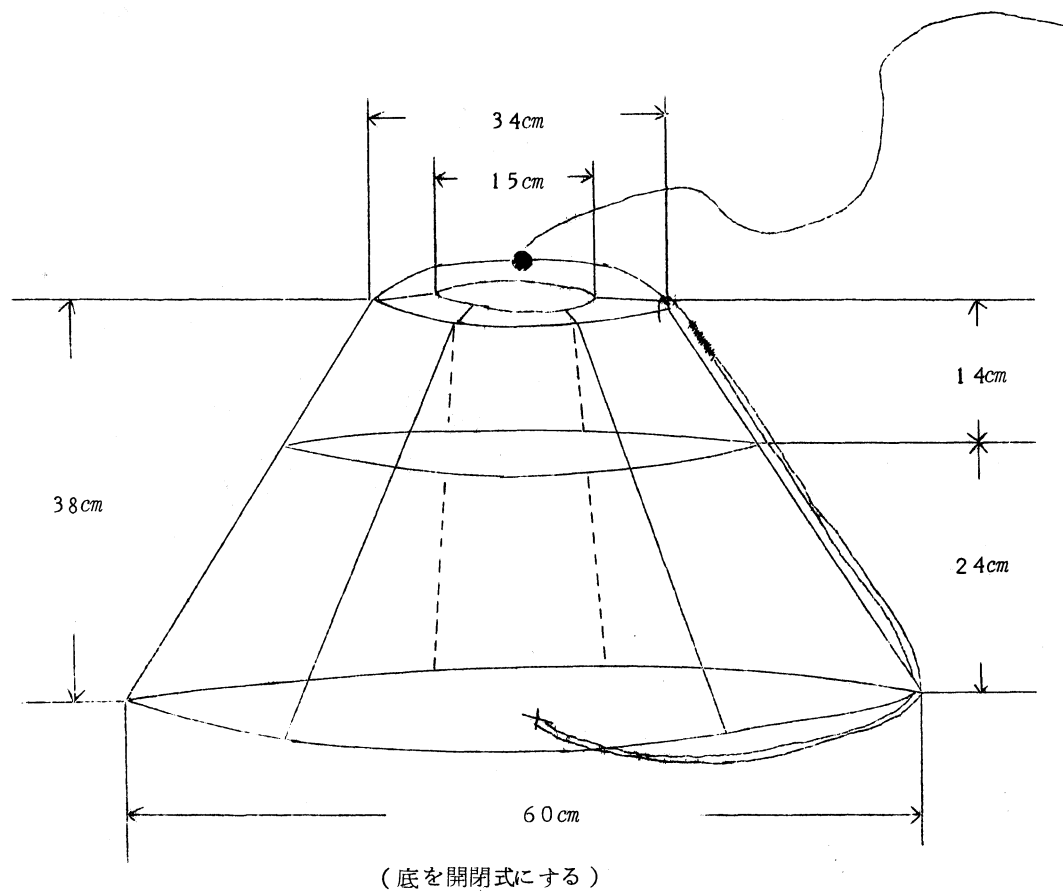
又、ツブが入籠した場所では、他の貝類も入籠し、単一種としての入籠はみとめられなかった。

IV 今後の課題および問題点

本調査はきわめて狭い海域の調査しか実施出来なかったので十分な分析を加えることはできないが、一応棲息していることが判明したので今後は時期的な分布状況と、漁具、漁法の解明に努力を続けたい。



第 2 図 漁 具 見 取 図



質材仕様

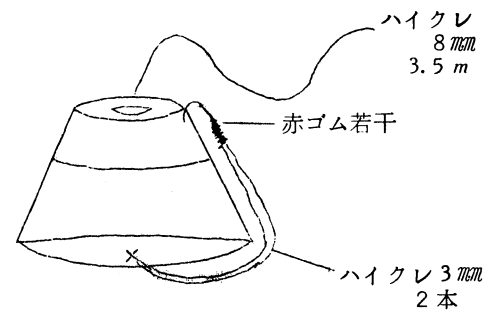
使用鉄棒 9 耗

従棒本数 6 本

使用網地 クレモナ 12 号

中輪より上 120 耗 (4 寸目)

“ より下 45 “ (1.5 寸目)



ツブ籠操業結果表

操業次数		1	2	3	4	5	6	7	8
日	投籠	3月4日 09.40~ 09.55	3/16 —	3/23 12.20~ 12.40	3/27 10.50~ 11.20	3/27 12.40~ 13.10	3/28 10.10~ 10.25	3/29 9.53~ 10.05	3/29 11.45~ 1155
	揚	3/27 09.50~ 10.40	3/23 13.30	3/27 11.40~ 12.30	3/28 7.00~ 8.15	3/29 7.45~ 8.20	3/29 10.23~ 10.50	4/2 8.30~ 8.50	4/2 9.30~ 9.50
位置		弁天崎 W/N 4 ~55マイル	弁天崎 WNW	弁天崎 NW 6.5'	弁天崎 WNW 5.2'	弁天崎 WNW 5'	高山 SW/W 1.6'	弁天崎 NE/N 1/2 N 8.5'	弁天崎 NE/N 1/4 N 7'
水深		60~66m	75 m	92~95m	78~80m	80 m	22~25 m	22m	19~21 m
底質		砂	泥	—	砂 泥	砂 泥	細 砂	砂	砂
流向	投籠	SW	W	ESE	E	E	N	N	N
	揚	E	ESE	E	N	E	E	N	N
水温 (0m)	投籠	—	—	6.8℃	7.0	7.0	7.0	6.8	7.4
	揚	7.0	6.8	7.0	6.8	6.6	—	—	—
使用籠数		33	30	30	30	30	30	30	30
投籠方向		SW	SE	ESE	E/S	E/S	N	N	S
漁獲	モスソガイ (ツブ)				5個	2個			
	エゾタマガイ				4	0			
	エゾボラ モドキ				2	6			
	計	0	0	0	11個	8個	0	0	0
備考		岩手水試 作成の籠 にアブラ メ1尾 また他の 籠にヒト デ1個入 った。	ヒトデ5 個入った。 漁具は3 ヶ所切断 され、籠 1ヶ流失 した。	ヒトデ5 ヶ入った。		餌料の約 半分は、 潮虫に食 われ、空 であった。	餌料の約 3分の2 は潮虫に 食われ、 空であっ た。	餌料は全 部潮虫に 食われて いた。	餌料は残 っていな かった。